



税理士 **市川 善明** 会員 札幌東支部

「つぶれない会社を創る」
そのために、日々、
私たちは頑張っております。

今回は、札幌東支部の市川会計事務所の所長である市川善明会員にお話を伺いました。

今までの経緯

昭和50年生まれの札幌市白石区出身、札幌学院大学商業部を卒業した後、税理士試験のため、アルバイトで学費を稼ぎながら大原簿記専門学校に通い、5年間の税理士試験を経て、平成14年12月に5科目合格しました。2つの税理士事務所に勤務した後、TKC会員である税理士法人アグス平岸事務所に勤務し、平成20年5月に独立しました。

現在、市川会員と女性スタッフ3名の計4名で、事務所経営を行っています。

経営理念・経営方針

「つぶれない会社を創る」を経営理念とし、つぶれない会社を創るためにはどうすればよいか

を判断軸として、関与先と接し、またスタッフ教育もその方針に沿って行っています。

また、面倒くさいことを後回しにする傾向があるため、「いちいち、やる!」を事務所テーマとしています。

当事務所の特徴

特徴としては、初期指導を徹底的に行っています。初期指導に関してはルールを整備し、全9回として1回90分、10日に1回ペースで行います。徹底的に初期指導を行うため、会計用品はもちろん、全ての関与先にTKCシステムを強制的に利用させています。これは平準化することで、スタッフの負担を極力生じさせないためです。

具体的には、中小会計要領を基に、事務所独自の会計処理ルールを作り、勘定科目の配列は



もちろん、補助コードも統一し、利益管理表および資金管理に関しても統一しています。

また、重点的に初期指導を教育していますので、書類整理を徹底的に行うことから始まり、一貫した経理指導が誰でも行える環境を整備することで、巡回監査時以外でも、きめ細やかにフォローできる体制を目指しています。

TISCバックアップ機能は全関与先に導入していますので、関与先が不在でも、いつでも自計化の状況を把握できる仕組みになっています。

「シンプル・イズ・ベスト」をモットーにTKCのパフレットに記載していることを忠実に実行するよう心掛けています。特に心掛けていることは、一気通貫を意識し、巡回監査、継続MAS、書面添付を確実に行うことです。

私の事務所の特徴を一言で言えば、初期指導と書面添付で関与先に感動していただく、これに尽きると思います。

自計化がなかなか難しいと悩まれる事務所もあるかと思います。私の事務所では「記帳代行」を、あえて「入力支援」と言い換えてから成果が上がりました。関与先、スタッフともに「入力支援」というスタンスで接することで、事務所で入力することは一時的なサービスだと伝えていきます。



そのため事務所で入力する場合でも、経理担当者を想定して、徹底して仕訳辞書のみを使わせています。スタッフがそのまま経理指導をすればいいので、いつでも自計化に移行できる状態になります。契約時も自計化を促しますが、それでも「入力支援」を行う場合には、月額報酬を倍にし、自計化に移行した時点で報酬を通常に戻しています。

TKCとの関わり

平成20年5月に開業したと同時にTKCに入会しました。現在は、北海道会ニューメンバーズサービス委員会副委員長、札幌東支部では書面添付推進委員長を務めています。

書面添付委員会では多くの気づきがありました。特に、書面添付を作成するため記録を残す仕組みを意識するなど、事務所経営に役立っていると思います。

TKC会員の皆様へ

これからも一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



取材を終えて

お忙しい中、取材に応じていただきありがとうございました。市川会員とは、私が平成12年から税理士試験の受験を始めた頃から交流があり、このように大原時代の受験仲間と再度交流できるのも、TKCの良い点だと思います。私も、TKCに入会させていただいてから、色々ご指導いただいております。これからも個人的には、市川会員を「Mr.TKC」と呼ばさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(広報委員会 小林 史郎)